

図書館員が選んだおすすめ本 100 冊

ヨコワン

Yokote City Librarians One Hundred Recommended Books 2026





たくさんの本の中からどんな本を読んだらいいか迷ってしまう、
そんな人に、本を選ぶきっかけとなるブックリストを作成しました。
横手市立図書館のスタッフ３０人がそれぞれに選んだ一冊です。

これ面白いから読んでみて！私が選んだ本の話をしましょう！
そんな想いを持って図書館でお待ちしています。

あなたの一冊に出合ってほしい。
みなさまに本との新たな出合いが訪れますように。

横手市立図書館

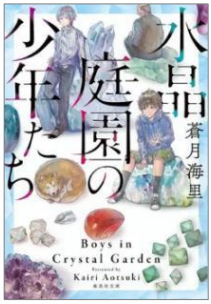
※本の紹介文はニックネームで掲載しています。

※掲載の 100 冊はすべて市内の図書館で借りることができます。
　お近くの図書館にないときは予約してください。お取り寄せいたします。

※本の所蔵館を記載しています。（2026.10.23 現在）
　横＝横手／増＝増田／平＝平鹿／雄＝雄物川／森＝大森／十＝十文字
　イベント期間中など、所蔵館が変更になる場合があります。ご了承ください。

『水晶庭園の少年たち』

蒼月　海里/著　　集英社　2018



祖父と愛犬を相次ぎ亡くした喪失感から学校を休んでいる樹。不思議な少年・雫に導かれ祖父が愛した鉱物の世界に足を踏み入れた彼は、石の精たちとの交流を通じて心を癒していく。現実と幻想が交錯するファンタジー。(I.K)

913.6ア
横・森

『奥州狼狩奉行始末』

東　圭一/著　　角川春樹事務所　2023



馬の産地である小藩では狼による被害が深刻化していた。狼狩奉行に任命された岩泉亮介は、父を襲ったとされる、体が大きく賢い狼の頭目を狩るために奔走する。狼害に隠された藩の不正と、父の死の真相に迫る時代ミステリ。(わんこ)

913.6ア
横・平・雄

『遙かなる城沼』

安住　洋子/著　　小学館　2014



館林藩の惣一郎は優秀な弟妹に劣等感があった。しかし藩内で起こる出来事を通して自分の信じる道を見つけていく。母の重圧から逃げ離藩した友の後悔ともう一度会いたかったと綴られた手紙を読み、惣一郎はある決意をする。(ばなな)

913.6ア
平・森

『僕たちの青春はちょっとだけ特別』

雨井　湖音/著　　東京創元社　2024

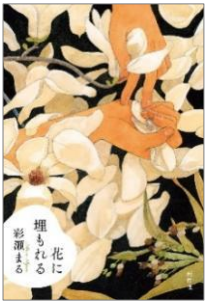


高等支援学校に通う架月は、校舎の階段で起こったゴミ散乱事件の捜査を先生から依頼された。先輩や友達にかかった疑いを晴らすため、事件の謎を解いていく。様々な個性を持った彼らの青春を描く連作集。(I.K)

913.6ア
横・増

『花に埋もれる』

彩瀬　まる/著　　新潮社　2023



舞台の役に没入し白木蓮に姿を変えた俳優の夫と、彼を愛する作家の妻。歪んだ夫婦の絆が交錯して不穏に揺れ動く『マグノリアの夫』ほか5話を収録。言葉にできない愛執を妖艶に描いた、現実と異世界が溶け合う短編集。(コテテト)

913.6ア
増・森

『大脱走』

荒木　源/著　　小学館　2015



片桐いずみが働く住宅リフォーム会社は悪質な訪問販売を行うブラック企業。自分だけは誠実な仕事をして理不尽な待遇にも耐えてきたが、会社ぐるみの詐欺に巻き込まれてしまう。困難に立ち向かう片桐に勇気をもらえる一冊。(パセリ)

913.6ア
森・十

『145g の孤独』
伊岡　瞬/著　　KADOKAWA　2020



913.6イ
横・増・雄

試合中の事故をきっかけに引退した元プロ野球選手の倉沢は、戸部からの紹介で便利屋の新事業「付き添い屋」を始める。悩みを抱える依頼人の問題を解決する中で、彼が抱えていた深い心の孤独が明らかになっていく。(Y.S)

『雲を紡ぐ』
伊吹　有喜/著　　文藝春秋　2020



913.6イ
横・森

祖父紘治郎の工房でつくられたホームスパンに魅了された美緒は、工房の職人になることを決意する。紘治郎もまた美緒の才能に気づき、厳しくもあたたかい目で見守る。盛岡を舞台に、手仕事を通じて深まる、家族の絆の物語。(りんご)

『茜唄（上･下）』
今村　翔吾/著　　角川春樹事務所　2023



913.6イ
雄・森

平氏棟梁・平清盛の四男で、最愛の息子と呼ばれた知盛。平家全盛から滅亡までを戦い抜いた彼の視点から、平家物語が描かれる。なぜ物語は生まれ、誰に託され、語り継がれてきたのか―。滅びゆく一族の、儚い家族の物語。(わいわい)

『われは熊楠』
岩井　圭也/著　　文藝春秋　2024



913.6イ
横・平・森

動植物の収集と記録、そして書物にのめりこんでいた熊楠は、世界のすべてを知るために学問に生きると決めた。好奇心の赴くままひたすら学び、己とは何かを探求し続けた学者・南方熊楠の幻想的な評伝小説。(ふっくん)

『難儀でござる』
岩井　三四二/著　　光文社　2006



913.6イ
横・雄・十

戦国時代に生き、主君に仕える人間に光を当てた短編集。御屋形様から無理難題を押し付けられる武将や領主の理不尽に立ち向かう村民など、権力に振り回される人々の難儀な出来事がユーモラスな筆致で描かれている。(まる。)

『土曜はカフェ･チボリで』
内山　純/著　　東京創元社　2016

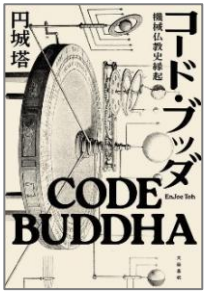


913.6ウ
雄・森

土曜日だけ開店するカフェ・チボリ。マッチ売りの少女や人魚姫、雪の女王など、アンデルセン童話をヒントに、訪れた客が持ち寄る謎を高校生オーナーが解き明かす。デンマークの料理や文化も紹介されている。(まめた)

『コード・ブッダ』

円城　塔/著　　文藝春秋　2024

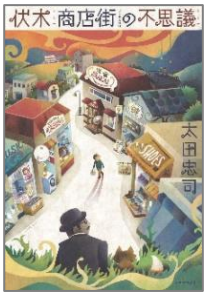


913.6 I
横・雄

2021年、とあるコードが自らをブッダと名乗り、苦しみから脱する方法を説き始める。ブッダ・チャットボットと呼ばれ、教えは機械たちの間で広がっていく。AI の苦しみとは何か―。AI は救われるのか―。機械仏教の縁起を描く。（わいわい）

『伏木商店街の不思議』

太田　忠司/著　　河出書房新社　2015

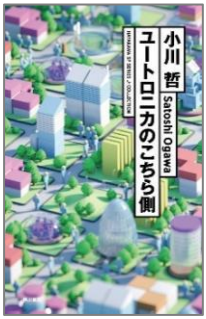


913.6 オ
森・十

大きくなりたい男の子に、一度飲むだけでパワーマンタンになる薬を処方する「スグル薬局」。どんな足にもぴったりな靴を用意する「竹島靴店」。伏木商店街の31店舗を舞台にした摩訶不思議なショートショート小説。（ヲ）

『ユートロニカのこちら側』

小川　哲/著　　早川書房　2015



913.6 オ
雄

人工知能が人間の思考を肩代わりするようになった近未来。位置情報から視覚まで、全ての個人情報を提供することで移住できる「アガスティア・リゾート」に人々は夢を抱く。だがその流れに逆らう者もいた。（ふっくん）

『花とアリス殺人事件』

乙一/著　　小学館　2015



913.6 オ
横・増・森

転校生のアリスと不登校の花。二人の少女が学校の「ユダは殺された」という噂の真相を追う青春ミステリ。調べを進めていく中で、二人が少しずつ心を通わせ友情を築き、成長していく姿を描く。（TKLR）

『擬傷の鳥はつかまらない』

荻堂　顕/著　　新潮社　2025

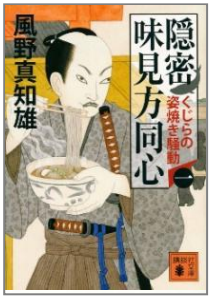


913.6 オ
横・森・十

歌舞伎町で身元の偽装屋を営むサチは、人生に絶望した人間を、違う世界へと逃がす扉の鍵を持つ。助けを乞う少女アンナや風俗店の久保寺を、わが身を呈して守るサチの姿はやがて痛切な真実にたどりつく。真の幸せとは―。（パセリ）

『隠密味見方同心』

風野　真知雄/著　　講談社　2015



913.6 カ
増・森

容姿端麗で腕利きの同心である月浦波之進に「江戸の飲食店の動向と悪事を探れ」という使命が下った。早速、町に繰り出すと「禿そば」の名を残し金貸しの男が殺される事件に遭遇してしまう。美食と人情溢れる江戸の捕物帳。（かぼちゃ）

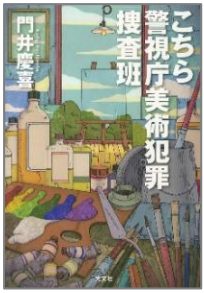
『腕が鳴る』
桂　望実/著　祥伝社　2025



“片付けは過去と未来の再編成”という、スゴ腕の整理収納アドバイザー中村真穂。散らかった部屋から、依頼主の抱える悩みや、人生そのものに寄り添い、助言していく連作短編集。(まりも)

913.6ｶ
横・森

『こちら警視庁美術犯罪捜査班』
門井　慶喜/著　光文社　2013



美術に疎い新米刑事の豪気と上司のすみれは、違法すれすれの商行為を行う美術販売会社に悪戦苦闘する。二人だけの美術犯罪捜査班が、ロダンやゴッホなど様々な美術品の真贋をどのように暴いていくのか。(みんと)

913.6ｶ
横・雄

『この場所であなたの名前を呼んだ』
加藤　千恵/著　講談社　2021



大学病院のNICU(新生児集中治療室)で闘う赤ちゃんとその家族。そこで働く看護師、医師、臨床心理士、清掃員。尊い小さな命をめぐる不安や葛藤、希望をそれぞれの視点で描いた連作短編集。(ヲ)

913.6ｶ
森・十

『百花』
川村　元気/著　文藝春秋　2019



息子の泉は、母の百合子と就職して家を出るまで、二人で生きてきた。久々に帰省すると、母は不在で室内は荒れていた。様々な異変に下された診断は認知症。介護をしながら、今まで避けてきた二人の間の溝に向き合う親子の物語。(あーさん)

913.6ｶ
横・増・平

『下北沢であの日の君と待ち合わせ』
神田　茜/著　光文社　2021



バイト先だったパン屋の閉店の知らせと、ある人物からの手紙をきっかけに、理夏は80年代に暮らした下北沢へ向かう。その街は30年前、夢に挫折した時に出会った大切な友人たちとの眩しくも苦い記憶が残る場所だった。(おこめ)

913.6ｶ
森

『さかさ星』
貴志　祐介/著　KADOKAWA　2024



YouTuber の中村亮太は、親戚の福森家で起きた異常な殺人事件を、超常現象に詳しい霊能者と一緒に調べることになる。事件の真相を知り、一家の生き残った子どもたちの命を守ろうと、必死に犯人へ立ち向かう。(だいふく)

913.6ｷ
横・増

『赤と白』

櫛木　理宇/著　　集英社　2013



閉塞感に満ちた豪雪の田舎町に暮らす女子高生・小柚子と弥子。二人は親友同士だがお互い相手に言えない悩みを抱えていた。大雪による大停電の夜、それぞれの家で事件が起こり……。少女たちの苦悩と狂気を描くサスペンス。(I.K)

913.6ｸ
横・森

『氷柱の声』

くどうれいん/著　　講談社　2025



伊智花が高校二年生だった頃、東日本大震災が起きた。盛岡で過ごしていた自分は、被災者の立場ではないと葛藤を抱えながら過ごしてきた。震災から10年が経ち、長い間心の中に留まっていた記憶や想いを形にした物語。(momo)

913.6ｸ
横・平

『空とセイとぼくと』

久保寺　健彦/著　　幻冬舎　2008



犬のセイとホームレス生活を送る少年、零。ある日出会ったブレイキンに心を奪われ、ダンスを始めた。ブレイキン仲間や周囲の人たちとの関わりから情緒を学び、社会を知っていく。ひとりと一匹の絆と成長の物語。(まめた)

913.6ｸ
増・雄・森

『騙る』

黒川　博行/著　　文藝春秋　2020

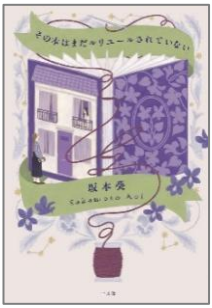


資産家に古墨の贋作を売り付けた古美術商に一泡吹かせてやろうと画策する『乾隆御墨』他、美術雑誌の編集長佐保が主人公の6つの連作短編集。美術品やヴィンテージの売買をめぐる、欲にまみれた悪知恵比べを痛快に描く。(パセリ)

913.6ｸ
横・森・十

『その本はまだルリユールされていない』

坂本　葵/著　　平凡社　2025



夢を諦めて小学校の図書館司書として働く主人公まふみ。実家を出て「ルリユール工房」という製本工房が併設されたアパートに住むことに。そこで製本に関わる人々の世界に触れて人生の一歩を踏み出していく再生の物語。(まりも)

913.6ｻ
横・増・平・森

『ジャッジメント』

佐藤　青南/著　　祥伝社　2013



殺人事件の容疑者・宇土と弁護人・中垣は、高校野球部のかつてのチームメイト。宇土の無実を証明するため奮闘するも状況は圧倒的不利。この事態を知り当時の仲間たちも協力するが、進展のないまま裁判が始まってしまう。(Y.S)

913.6ｻ
横・雄

『行成想歌』

佐藤　雫/著　　光文社　2024



913.6サ
増・森

後ろ盾のない平安貴族だった藤原行成は、若き帝、一条天皇に蔵人頭を命じられた。天皇と中宮定子に起きた出来事、側近としての務め、夫としての苦悩を描いた、愛をテーマにした歴史物語。（りんご）

『天国映画館』

清水　晴木/著　　中央公論新社　2024



913.6シ
増・雄

記憶を失った小野田明が辿り着いたのは、天国を訪れた人々の人生を映画として上映する「天国映画館」だった。支配人・秋山と共に働く中で記憶が少しずつ蘇っていくが、突然自身の映画フィルムが届き物語は急展開する。（ヲ）

『プリテンド・ファーザー』

白岩　玄/著　　集英社　2022



913.6シ
横・増

シングルファーザーの恭平は、偶然再会した高校の同級生・章吾もひとりで子育てしていることを知る。シッターを依頼し同居を始めるが、生活はうまくいかない。社会に根強く残る男女の不平等や生きづらさを、男性の視点から描く。（おこめ）

『クロコダイル・ティアーズ』

雫井　脩介/著　　文藝春秋　2022



913.6シ
横・森

老舗陶器店の息子・康平が殺害された。犯人は康平の妻・想代子の元恋人で、想代子に夫殺しを頼まれたと主張する。ひとつ屋根の下、嫁を信じたい義父と疑心暗鬼に陥る義母。想代子が夫の亡骸の前で流した涙の真意とは。（パセリ）

『風狂の空』

城野　隆/著　祥伝社　2009



913.6ジ
増・雄・森

羽州久保田藩、小田野直武は描いた屏風絵が平賀源内の目に留まり江戸で絵の修行をしていた。源内の薦めで解体新書の附図を完成させ、より一層、蘭画の描法修練に勤しむ。しかし、実直さ故に幕府内の権謀に巻き込まれていく。（ばなな）

『雲は湧き、光あふれて』

須賀　しのぶ/著　　集英社　2015



913.6ス
横・増・森

太平洋戦争中、甲子園を目指したバッテリーの物語。地区大会を勝ち抜き甲子園出場を手にしたのは戦火が激しい昭和16年、大会の中止が告げられる。共に戦ったチームメイトが次々に戦地へと赴く中、二人も例外ではなかった。（菅さん）

『電王』

高嶋　哲夫/著　　幻冬舎　2016

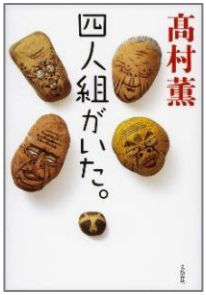


913.6タ
横・平・雄

将棋の奨励会三段リーグで戦った二人の小学6年生。勝利した取海はプロ棋士となり、負けた相場は将棋を辞めた。20年後、名人となった取海と人工知能の研究者となった相場は再び出会い、盤上で激突する。(T.T)

『四人組がいた。』

髙村　薫/著　　文藝春秋　2014



913.6タ
横・増・雄

暇を持て余し、日がな一日集会所で茶飲み話をしている老人4人組。彼らのもとにやって来た客を巻き込み騒動を起こす。若返りの泉、喋るダチョウ、キャベツの行進など、山奥の村で起こる荒唐無稽な出来事を描いた連作短編。(みんと)

『煌夜祭』

多崎　礼/著　　中央公論社　2023



913.6タ
横・十

冬至の夜、語り部と呼ばれる者たちは十八諸島に集い、自らの集めた物語を披露し合う、煌夜祭を開く。そこで語り明かされていくのは、人を喰らうとされる魔物の哀しい歴史だった。壮大な世界観を描いたファンタジー。(T)

『眠れない夜のために』

千早　茜/著　　平凡社　2024



913.6チ
横・雄・十

静かな夜にひっそりとクッキーを食べる女性、夜の散歩で偶然出会った青年。不安や焦りを抱えるものたちの夜の過ごし方を描いた10編の短編集。群青色を基調とした美しい挿絵が各編に添えられ物語の魅力を引き立てている。(h)

『答えは市役所３階に』

辻堂　ゆめ/著　　光文社　2023



913.6ツ
横・雄・十

2020年、立倉市役所に開設した「こころの相談室」には、コロナ禍で悩みを抱える人々が次々と訪れる。カウンセラーの晴川らは相談者に寄り添い対応していく中で、彼らが本当に秘めている苦悩にも迫っていく。(T)

『うそコンシェルジュ』

津村　記久子/著　　新潮社　2024



913.6ツ
横・増

会社員のみのりには上手にウソをつくための4つの持論があり、気が付くと大学生の姪や職場の上司にも依頼される「ウソ請負人」になっていた。表題作のほか、やるせない日々を乗り切るヒントや元気をもらえる11編の短編集。(ことら)

「智恵子飛ぶ」

津村　節子/著　　講談社　1997



913.6ツ
横・雄・森・十

福島で生まれた長沼智恵子は、彫刻家の高村光太郎に出会い互いに惹かれ合い結婚する。幸せも束の間、次第に自らの芸術家としてのオに苦悩し、やがては心身共に病んでいく。彼女の波乱の人生を描いた伝記的小説。(T)

『愛がぼろぼろ』

爪　切男/著　　中央公論新社　2025



913.6ツ
雄・十

著者の実体験を基に、日常的に父親から虐待を受ける少年・広海と町外れに住む、嫌われ者の中年男性ゴブリンとの交流を描く。過酷な日常を送る少年が不器用な人々と関わることで、希望を見出していく物語。
(ノラネコ)

『死んだら永遠に休めます』

遠坂　八重/著　　朝日新聞出版　2025



913.6ト
横・雄

ブラック企業で働く主人公のもとに、失踪したパワハラ上司から「私は殺されました」とメールが届く。容疑者は、その上司を怨んでいた部下全員。追い詰められた限界会社員たちの犯人捜しが始まる。(ノラネコ)

『息が詰まるようなこの場所で』

外山　薫/著　　KADOKAWA　2023



913.6ト
横・増

タワーマンションの低層階に住む共働きのさやかは、医者の妻で最上階に住む綾子に劣等感を抱いていた。情報が筒抜けになってしまう狭いコミュニティで生きる苦しさや葛藤を二組の夫婦の視点で描いた物語。(ことら)

『11 ミリのふたつ星』

砥上　裕將/著　　講談社　2024



913.6ト
横・平

眼科医院で働く視能訓練士・野宮恭一は、斜視の幼い少女や視野欠損の小学生など「見えにくさ」に悩む人々に向き合いながら成長していく。わずか11ミリと言われる瞳から「見えること」の奇跡を描いた連作短編集。(わんこ)

『樽とタタン』

中島　京子/著　　新潮社　2018



913.6ナ
横・増・森

鍵っ子だったトモコは、喫茶店にある赤い樽でいつも遊んでいた。すると常連客から「タタン」と呼ばれるようになる。個性豊かな大人たちの会話には、本当と嘘が混じっていてトモコを不思議な世界へと引き込んでいく。(momo)

『しあわせガレット』

中島　久枝/著　　角川春樹事務所　2023



913.6ナ
増・森

人と上手く馴染めない35歳の詩葉。派遣契約が終了した日の帰り道、偶然見つけた店のガレットの味に魅了され、店で働くことに。独特な雰囲気の店主や個性豊かな常連客との交流を通じて、少しずつ自信を取り戻していく。（まりも）

『小森谷くんが決めたこと』

中村　航/著　　小学館　2014



913.6ナ
横・雄・十

学生時代の挫折や後悔を乗り越え、仕事にやりがいを感じていた小森谷くん。そんなある日、ステージⅣの病と、わずかな余命を宣告された彼は、ある決意を胸に行動を起こす。実在の青年の闘病体験をもとにした作品。（砂糖さん）

『泣くな研修医』

中山　祐次郎/著　　幻冬舎　2019



913.6ナ
森・十

外科医を目指す雨野隆治25歳は、研修医1年目を東京で始めた。学生時代とは違い、様々な医療行為を現場でひとりこなしていく。時に無力感を感じながら、早く一人前になりたいと焦る日々を描く。シリーズは8巻まで。（あーさん）

『猫は知っていた』

仁木　悦子/著　　講談社　2022



913.6ニ
平・森

明るく活発な音大生の妹・悦子と大学生の兄・雄太郎。二人は下宿先の個人医院で連続殺人事件に遭遇する。不可解な失踪者や事件のあちこちに姿を現す猫。この不思議な事件の謎を兄妹探偵が解いていく。（モフモフ）

『叙述トリック短編集』

似鳥　鶏/著　　講談社　2018



913.6ニ
平・森

叙述トリックとは、文章で誤解や先入観を抱かせ、読者を騙すミステリの手法のひとつ。なぜトイレが詰まったか、直したのは誰かを解き明かす『ちゃんと流す神様』他6編。解決後の爽快感を味わえる一冊。（まめた）

『認知の母にキッスされ』

ねじめ　正一/著　　中央公論新社　2014



913.6ネ
横・雄・十

母が認知症と診断された。息子による介護が行われるも症状の進行は止まらず、母の喚き声と妄想は日に日に増すばかり―。著者の体験をもとに、母への深い愛情とシリアスな介護現場について綴られた介護小説。（T.T）

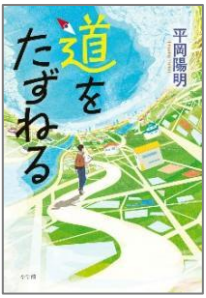
『問題。』
早見　和真/著　　朝日新聞出版　2025



913.6ハ
横・増・雄

十和は小学校最後の夏休みに塾でだされた「家族の幸せの形」についてずっと考えていた。家族になじめず悩んでいる自分には難しい問題。家族から離れて通える私立中学校を受験して合格したとき、十和は自分の答えを見つける。(りんご)

『道をたずねる』
平岡　陽明/著　　小学館　2021



913.6ヒ
横・森

地図会社で働く俊介は、父と同じ調査員として全国を歩いて地道に現地調査をしている。中学時代に友情の誓いを立てた幼馴染の二人とは、大人になってからも互いの仕事で助け合う。二世代にわたる友情と家族の絆を描く物語。(わんこ)

『安倍宗任伝　前九年・後三年合戦』
平谷　美樹/著　　実業之日本社　2025



913.6ヒ
横・雄

藤原氏が奥州に安寧の地を築く以前、陸奥国の豪族安倍貞任・宗任兄弟は、源頼義・義家率いる朝廷軍との熾烈な戦を繰り広げていた。前九年・後三年合戦と、戦乱の世をかけぬけた弟・宗任の激動の生涯を描いた物語。(砂糖さん)

『私が鳥のときは』
平戸　萌/著　　河出書房新社　2023



913.6ヒ
横

余命わずかのバナミさんが突然家にやってきた。図々しいふるまいの彼女にイライラが募る蒼子だったが、ひょんなことから、一緒に受験勉強をすることに。中学生が悩む様々なことが、バナミさんの存在とともに優しく描かれる。(菅さん)

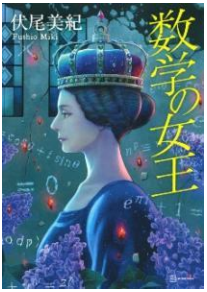
『S&S 探偵事務所　最終兵器は女王様』
福田　和代/著　　祥伝社　2017



913.6フ
横・増・雄

元サイバー捜査官のしのぶと桃花。二人が立ち上げたIT関係の探偵事務所に持ちこまれたある依頼をきっかけに、桃花の両親が失踪した20年前の未解決事件が動き出す。二人の探偵が過去の謎に挑むミステリ。(TKLR)

『数学の女王』
伏尾　美紀/著　　講談社　2023



913.6フ
横・平

新設された大学で爆発事件が起き、死亡者がでた。事件の担当は社会科学博士号を持つ女性警官。大学研究室での差別や警察内部の不平等など女性が社会で働くことの難しさも考えさせられるミステリ。(さくら)

『女系の総督』

藤田　宜永/著　　講談社　2014



913.6ﾌ
横･増･雄

代々女系の森川家は、家長の宗徳以外は猫までも雌で女だらけだ。妻は他界したが今は新たな出会いがあり充実している。一大事ではないが問題を抱え、時にぶつかり助け合いながら人生を謳歌している家族の物語。（あーさん）

『事件は終わった』

降田　天/著　　集英社　2022



913.6ﾌ
横･増

目の前で無差別殺人事件が起きたらどのような行動をとれるだろうか。切りつけられた妊婦、犯人に立ち向かった老人、背を向けて逃げた会社員……。あの日現場に居合わせた人々の苦悩と、日常を取り戻すまでの再起を描く連作短編。（かぼちゃ）

『最高のアフタヌーンティーの作り方』

古内　一絵/著　　中央公論社　2021



913.6ﾌ
増･森

老舗ホテルで働く涼音は、お客様に素敵な時間をとの思いで念願のアフタヌーンティーの企画を提案するが……。人間模様と共に描かれる、その起源の物語やお菓子の専門的な描写も魅力的な一冊。（砂糖さん）

『北高野球部学生監督ガイ』

本田　有明/著　　河出書房新社　2016



913.6ﾎ
横･増･雄

高校2年生のガイは、1年前に交通事故で怪我をして野球部を辞めていたが、部員たちの説得により監督として部に戻る。廃部の危機にあるチームのため、亡き父の教えと自らの経験を活かし仲間と共に勝利を目指す物語。（Y.S）

『お客様が不在のためお荷物を持ち帰りました。』

鞠目/著　　アルファポリス　2025



913.6ﾏ
横･雄

奇妙な配達員がいるという問い合わせが運送会社に寄せられたことから物語は始まる。その正体不明の偽配達員は何のために現れるのか。生身の人間の狂気と、得体の知れない不気味なものの恐怖を描いたホラー小説。（ことら）

『勿忘草をさがして』

真紀　涼介/著　　東京創元社　2023

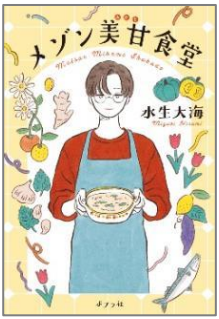


913.6ﾏ
横･森･十

不運な事件に巻き込まれて部活をやめることとなり、鬱々とした毎日を過ごす高校生・航大とガーデニング好きの大学生・拓海。植物に絡む謎解きをしながら、少しずつ変わっていく二人を描いた連作短編集。（モフモフ）

『メゾン美甘食堂』

水生 大海/著　ポプラ社 2025



メゾン美甘に新しくやってきた若い料理人。住人たちの職場での悩みや気づけなかった不調に優しく寄り添う。何気ない会話を手掛かりに美味しい料理で心も身体も元気にさせる、薬膳レシピ付きの一冊。（さくら）

913.6ミ
横・平

『今宵も猫は交信中』

水庭 れん/著　講談社 2024



多頭飼育から救出された保護猫4姉妹には喉を鳴らすとテレパシーが使えるという特技がある。普段は離れて暮らす姉妹で飼主の自慢話をしているが、危機が訪れると特技を駆使して奔走する。猫視点で語られる家族の絆の物語。（かぼちゃ）

913.6ミ
横・森

『よき時を思う』

宮本 輝/著　集英社 2023

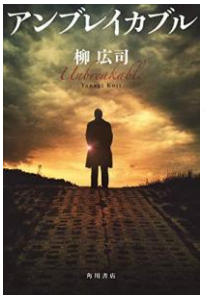


東京で働く綾乃のもとに実家に住む祖母の徳子が90歳の記念に晩餐会を計画しているという知らせが届く。これまで自らを多く語らなかった祖母の生涯に触れ、豪華な晩餐会と「よき時」の意味を知るあたたかな家族の物語。（おこめ）

913.6ミ
横・十

『アンブレイカブル』

柳 広司/著　KADOKAWA 2021



治安維持法が施行されていた時代、共産主義者ばかりか無実の者への取り締まりも厳しくなっていた。組織維持のため罪を捏造してまで検挙を遂行する官憲に対し、作家・小林多喜二ら信念を貫いた者たちを描く歴史ミステリ。（みんと）

913.6ヤ
横・増

『異人たちとの夏』

山田 太一/著　新潮社 1987



シナリオライターの男は、ある日、子どもの頃に亡くなったはずの両親と再会する。幻か現実か分からないまま、父母との穏やかな時を過ごすが男の体調は日に日に悪くなっていく。ノスタルジックなホラー小説。（ゆこリン）

913.6ヤ
平・雄

『ばにらさま』

山本 文緒/著　文藝春秋 2021

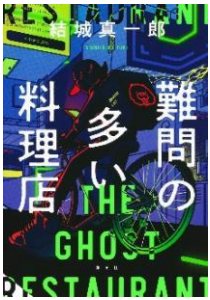


例えるならバニラアイスのような女性との出会いと別れを綴った『ばにらさま』、友人の死がいつまでも大人になれない自分と向き合うきっかけになる『子供おばさん』など、さまざまな人間模様を描いた 6 つのストーリー。（砂糖さん）

913.6ヤ
横・森

『難問の多い料理店』

結城　真一郎/著　　集英社　2024



913.6ｲ
横･平

夫の遺体から指が消えた理由、空き部屋に延々と届く荷物……。配達人の運ぶ謎に、ミステリアスなシェフが「依頼人が最も納得できる解答例」を示す。隠された真相を想像せずにはいられない連作短編集。（ふっくん）

『陰陽師　付喪神ノ巻』

夢枕　獏/著　　文藝春秋　1997



913.6ｲ
増･平･雄･森

老人が瓜の実を瞬く間に育てる光景を目にした源博雅。それを安倍晴明に話したところ、彼は瓜にまつわる思い出話を語り始める。老人に再会するために奔走する二人の様子を描いた『瓜仙人』ほか６話からなる短編集。（TKLR）

『岸辺の旅』

湯本　香樹実/著　　文藝春秋　2010



913.6ｲ
雄･森

深夜の台所に3年前に失踪した夫が現れた。夜が明ける前に夫と旅に出る瑞希。行く先々で出会った人々と触れ合う中で、共に暮らしていた頃よりもお互いを理解し合うが、二人の旅は終わりに近づいていた。（ばなな）

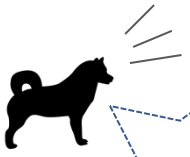
『かっかどるどるどぅ』

若竹　千佐子/著　　河出書房新社　2023



913.6ﾜ
横･十

社会から孤立して生きる4人の男女が訪れたのは、自分の暮らすアパートの居室を開放し、無償で食事をふるまう女性の元だった。凄絶な過去を持ちながらも、献身的に寄り添う女性の笑顔と言葉に4人は惹かれていく。（T.T）



ここからはエッセイや
ノンフィクションの
ジャンルから選んだ
おすすめ本です

『七転びなのに八起きできるわけ』

浅暮　三文/著　　柏書房　2021



914.6ｱ
雄･十

ミステリー作家である著者が「棚からぼた餅が落ちてくる角度」「溺れる者が掴む藁の本数」など、ことわざや慣用句に潜む謎を多面的なアプローチで考察する。圧倒的な知識量とユニークな妄想でことばを楽しむエッセイ。（おこめ）

『ラーメンと瞑想』
宇野　常寛/著　　集英社　2024



914.6ｳ
増

毎週水曜の朝に行われる友人Ｔとのランニングと瞑想、そしてラーメン（食事）。雑念を払い、二人で世界について語り合い、食べる時は全力で目の前の食事と向き合う。食に並々ならぬ情熱を持つ著者による12のエッセイ。（わいわい）

『ねにもつタイプ』
岸本　佐知子/著　　筑摩書房　2007



914.6ｷ
雄

幼い頃から独特な感性とこだわりを持つ翻訳家の著者が、そのユニークな思考と学生時代のエピソードなどを綴るエッセイ。気になる物を見ると思わず妄想が膨らんでしまう著者の風変わりでシュールな日常が淡々と描かれる。（ゆこリン）

『好きな食べ物がみつからない』
古賀　及子/著　　ポプラ社　2023



914.6ｺ
横

「好きな食べ物は？」という質問に自信をもって答えられるようになりたい筆者。仮定と検証・自問自答を繰り返し、ありがちだが難しいこの問いに真剣に向き合った120日の記録。紆余曲折を経て最後に導き出した答えとは？（I.K）

『家から５分の旅館に泊まる』
スズキ　ナオ/著　　太田出版　2024



914.6ｽ
横

「疲れた。もう何もしたくない。」という前書きから始まるお酒と旅するエッセイ集。目的を定めた特別な旅ではなく、日々の暮らしの気づきから派生するような緩やかな旅に癒される。お酒片手にのんびりと読みたい旅行記。（かぼちゃ）

『鳥はみずからの力だけでは飛べない』
田口　ランディ/著　　晶文社　2005



914.6ﾀ
横･増･雄･森･十

不登校の少年に著者が自身の経験をもとに綴った10通の手紙。兄が自死した時に感じた葛藤と無力感。学校に行くこと、働くこととは何なのか。厳しくも温かさが滲む言葉が、私たちに生と死の両面を深く考えさせる。（コテテト）

『ありがとうのかんづめ』
俵　万智/著　　小学館　2017



914.6ﾀ
増･雄

園児から小学生だったころの息子との時間を綴ったエッセイ。中学生になった息子を前に、子育ては何もかもが期間限定であったことをあらためて思う。自身の人生を豊かにしてくれた息子への感謝の気持ちがこめられた一冊。（りんご）

『ビールは泡ごとググッと飲め』

早川　茉莉/編　　筑摩書房　2024



914.6ビ
横・十

63人のビールに関するエッセイをまとめたアンソロジー。泡、香り、グラスなど、その魅力を様々な視点から楽しむことができ、情景が浮かぶと喉の渇きを覚えてしまう。ビールを丁寧に味わうことを思い出させてくれる一冊。(T.T)

『あの人と、あのとき、食べた。』

椹野　道流/著　　二見書房　2025



914.6フ
横・森

正月に家族で食べたうどんすき、母が作ってくれたお弁当など、その時に関わった人たちと食べものにまつわる、美味しくて、楽しくて、そして切ないエッセイ。昭和な雰囲気漂う椹野流料理レシピと写真付き。(モフモフ)

『蚊がいる』

穂村　弘/著　　KADOKAWA　2017



914.6ホ
横・十

少し気になったことがあるが自分だけだろうと思って無視したり、気にしないふりをしたりしている、そんな日常の些細な場面を抜きだしたエッセイ。内気な著者の鋭敏な感覚をもって、余すところなく綴られている。(まる。)

『編めば編むほど　わたしはわたしになっていった』

三國　万里子/著　　新潮社　2022



914.6ミ
横・森

「書く」ことは「編む」ことと似ている、というニットデザイナーの著者。幼いころ、学生時代、就職するも辞めて秋田の温泉旅館で働く23歳のころ、結婚、子育てなど、日々の営みの中で秘めていた思いを綴った温かなエッセイ集。(菅さん)

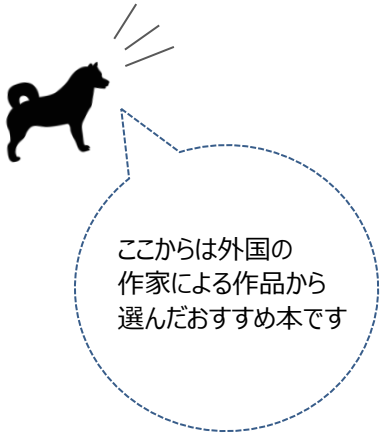
『飛び立つ季節　旅のつばくろ』

沢木　耕太郎/著　　新潮社　2022



915.6サ
横・森・十

著者の国内旅行記。16歳の時に初めてひとり旅で訪れた秋田へ再訪する話をはじめ、全国各地を巡った思い出が綴られる。日常のエピソードも織り交ぜながら、景色や人々との関わり合いなどが情景深く描かれている。(T)



『四維街一号に暮らす五人』

楊　双子/著　三浦裕子/訳
中央公論社　2025



台湾に建つ日本式のシェアハウスには曲者の大家と4人の大学院生が住む。隣の部屋から感じる気配は互いの寂しさを埋め、共有の食堂でともに囲む台湾料理に話が弾む。個性豊かな5人の共同生活を緩やかに描く物語。（菅さん）

923.7ヨ　横・雄

『わたしたちが光の速さで進めないなら』

キム・チョヨプ/著　カン・バンファ、ユン・ジヨン/訳
早川書房　2020

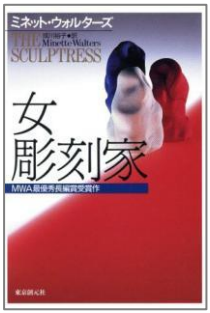


閉鎖された宇宙ステーションで、100年以上も宇宙船が出航するのを待ち続ける老女アンナ。冷凍睡眠の研究者だった彼女はその技術が完成した後、家族を追いかけるはずだったがー。表題作を含む7編の韓国 SF 短編集。（ノラネコ）

929.1キ　雄・森

『女彫刻家』

ミネット・ウォルターズ/著　成川裕子/訳
東京創元社　1995



母と妹を殺害し刑務所内で「彫刻家」と呼ばれる大柄な女性オリーヴについて、ライターのロズは版元から半ば強制的に本の執筆を命じられる。事件の関係者や、オリーヴとの面会を繰り返す中で矛盾点に気づき疑念を抱く。（ノラネコ）

933.7ウ　雄・十

『ほんのささやかなこと』

クレア・キーガン/著　鴻巣友季子/訳
早川書房　2024



町の丘に建つ修道院は学校や洗濯所の経営もしていた。燃料の販売業を営み妻と5人の娘とささやかに暮らすビルは、配達の時に修道院の隠された真実を知ってしまう。アイルランドで起きていた社会問題を基にした実録小説。（ことら）

933.7キ　横

『Y の悲劇』

エラリー・クイーン/著　中村有希/訳
東京創元社　2022

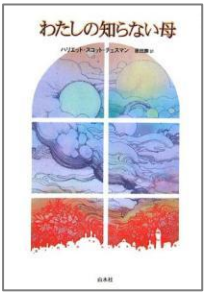


アメリカの大富豪ハッター家の当主ヨークの謎の死から数か月、毒殺未遂事件に続いて、不可解な凶器によって実質的な支配者だった妻エミリー殺人事件が起きる。元俳優の名探偵ドルリー・レーンは苦悩しながらこの謎に挑む。（モフモフ）

933.7ク　横・森

『わたしの知らない母』

ハリエット・スコット・チェスマン/著　原田勝/訳
白水社　2006

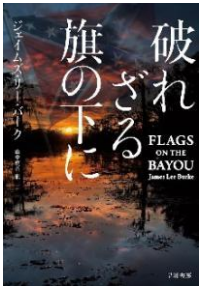


認知症を患うハンナは、過去と現実が交錯し記憶も失われつつある。時おり思い出がよみがえると、戦争によって家族と別れ、夫を失い、異国でシングルマザーとして懸命に生きた彼女の人生が語られていく。（ゆこリン）

933.7チ　雄・森

『破れざる旗の下に』

ジェイムズ・リー・バーグ/著　山中朝晶/訳
早川書房　2025



933.7バ　横・雄

1863年、南北戦争下のルイジアナ。侵攻する北軍、奴隷解放を掲げるゲリラ組織が入り乱れる中、黒人奴隷のハンナは元主人の殺害容疑をかけられ逃亡する。彼女を追う者、助ける者、様々な人々の人生が交錯する歴史ドラマ。（わいわい）

『ハロルドとモード』

コリン・ヒギンズ/著　阿尾正子/訳
二見書房　2022



933.7ヒ　森・十

“死”に執着する19歳の青年と全力で“生”を謳歌する79歳の婦人、正反対の二人が出会い心通わせる絆の物語。型破りな婦人との交流は青年の人生に彩りを与え、生きる喜びに気付かせてくれる。人生賛歌ともいえる一冊。（まる。）

『猫のパジャマ』

レイ・ブラッドベリ/著　中村融/訳
河出書房新社　2008



933.7ブ　増・平・雄

捨て猫をめぐる男女の恋の始まりを描いた「猫のパジャマ」。白くなりたい黒人少年と日焼けしたい白人少年のひと夏の交流の物語「さなぎ」など、アメリカSF文学の名手である著者の社会風刺や皮肉が効いた短篇集。（ゆこリン）

『うけいれるには』

クララ・デュポン＝モノ/著　松本百合子/訳
早川書房　2023

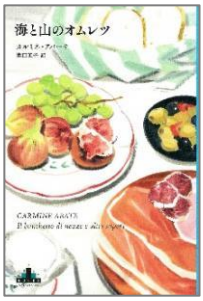


953.7デ　平・雄

ある一家のもとに障がいのある「子ども」が生まれた。長男は弟の世話に固執し、長女は変容した家族へ怒りを募らせる。「きょうだい児」の内面を繊細に描いた一冊。（ふっくん）

『海と山のオムレツ』

カルミネ・アバーテ/著　関口英子/訳
新潮社　2020



973ア　森・十

南イタリア出身の著者が、これまでに移り住んだ土地と家族の歴史、記憶を食と共に回想する自伝的短編集。伝統的な食材と郷土料理の色彩豊かな表現に五感が刺激され、大切な人たちと食卓を囲む喜びが鮮明に伝わってくる。（コテテト）

『女が嘘をつくとき』

リュドミラ・ウリツカヤ/著　沼野恭子/訳
新潮社　2012



983ウ　横・雄・十

話を盛る程度から嘘八百を並べる壮大なものまで、様々な理由で嘘をつく5人の女性たちとそれに振り回されるひとりの女性の話。旧ソビエト崩壊前後の、国にも男にも頼れなかったロシア人女性の強さと孤独が詰まった短編集。（まる。）

ヨコワン 2026
図書館員が選んだおすすめ本 100 冊

2026 年 10 月 26 日

横手市立図書館
【問合せ】
図書館課(横手図書館)
〒013-0036 横手市駅前町 2-12　電話 0182-32-2662